

# 岡崎市乙川リバーフロント地区かわまちづくり検討

## Consideration on Community Development Integrating Rivers in the Oto River Riverfront District in Okazaki City

水循環・まちづくりグループ 研究員 佐伯 博人  
 河川・海岸ループ 研究員 阿部 充  
 技術参与 土屋 信行

### 1. はじめに

愛知県岡崎市は、平成 25 年度から岡崎城下を流れる乙川の河川空間を活かしたまちづくりに取り組み、市役所内の関係部局によって基本方針の内容を具体化し、平成 26 年 8 月に「乙川リバーフロント地区整備計画」を公表した。

その後市民や民間の意見を反映するため参加メンバーを拡充した「乙川リバーフロント推進部会」での検討を踏まえ、「社会資本整備総合交付金」および「かわまちづくり支援制度」への計画の提出・申請を行い、平成 27 年 3 月に「かわまちづくり」支援制度への登録、平成 27 年 4 月に社会資本整備総合交付金の内定通知を受けた。平成 28 年度には、「乙川リバーフロント地区かわまちづくり協議会」が河川敷地占用許可準則の第 6 に掲げる占用主体となり、地元の NPO 法人等が事務局となる「チームおとがワ！ンダーランド」が施設使用者として使用契約を締結することで、地域の飲食店や様々な団体による活動（収益事業を含む）が可能となった。現在にぎわい創出のシンボルとして人道橋（木装橋）の建設が進められている。

本稿では、乙川リバーフロント地区におけるにぎわい創出に向けた取り組みを紹介する。

### 2. 平成 28 年度の取組み状況

「乙川リバーフロント地区」において、河川敷地占用許可準則の都市・地域再生等利用区域に指定された範囲で地元事業者や活動団体が参加する「おとがワ！ンダーランド」が実施された。

今年度は利用区域のうち殿橋より下流側の左右岸を対象として、図-2 の河川占用配置図のように活動・事業内容によってエリアを区分（バーベキューエリア、大規模アクティビティエリア、出店エリア、水面利用エリア、テラス）し様々なイベント等で利用した。

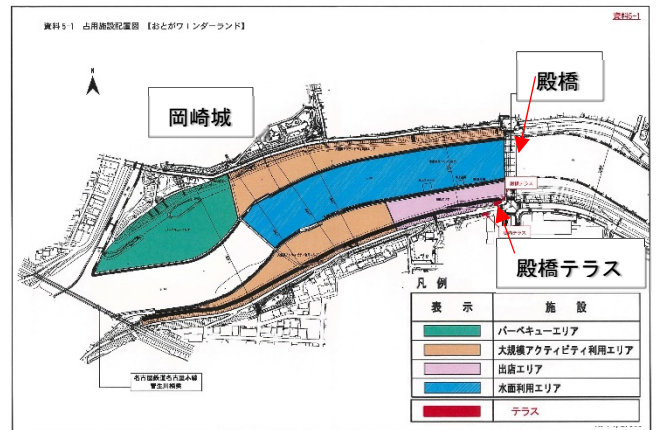


図-2 河川占用配置図

今年度は、昨年 12 月に実施した「泰平の祈り」プロジェクトや観光船運航に加え、市内の大学による合同学園祭や、「ミズベリング会議」もあわせて実施された。



写真-1 事業・イベントの開催状況  
 (左：泰平の祈りプロジェクト、右：ミズベリング会議)

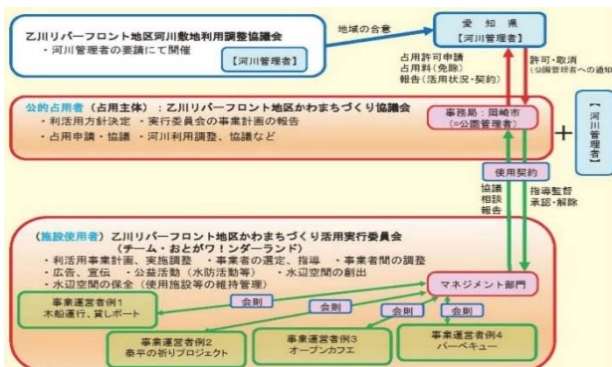


図-1 かわまちづくり推進体制



写真-2 出店エリアの様子

### 3. 都市・地域再生等利用区域の利活用上の課題

「おとがワ！ンダーランド」として実施された取り組みのなかには、空洞木や大型テントなど重量可搬物や堤外地側に仮設するテラス等があり、洪水時には河川敷の一般来訪者や出展者等の適切な避難に加えてこうした仮設物や重量可搬物の撤去・搬出が河川占用許可上の課題となった。

対策としては気象情報や上流水位観測所の水位情報などを基準とする活動毎・対象物毎のタイムラインを検討し的確な履行を実施した（台風襲来時等3回実施）。



写真-3 殿橋下流側取付部（堤外）に設置したテラス

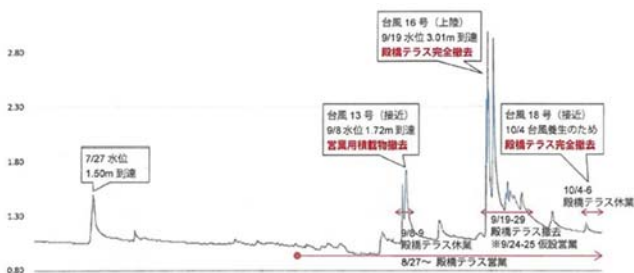


図-3 避難・仮設物等の撤去（縦軸-水位 横軸-時間）

項目	事前準備		緊急時		事後対応	
	実施内容	実施時期	実施内容	実施時期	実施内容	実施時期
避難・仮設物撤去のためのタイムライン	7/27 水位 1.50m 到達	9/8 水位 1.72m 到達	9/19 水位 3.01m 到達	10/4 台風発生のため	10/4-6 殿橋テラス休業	9/27～殿橋テラス営業

図-4 避難・仮設物撤去のためのタイムライン

### 4. 人道橋（木装橋）の建設

乙川リバーフロント地区には岡崎城があり、その城下は東海道五十三次の宿場町として繁栄し、明治～昭和期にも西三河の主要な市街地であったことから、歴史的な観光資源となる施設も多く、平成28年5月に歴史的風致維持向上計画が認定された。

岡崎市では、更なる観光産業都市の創造を進めるた

めに乙川リバーフロント地区主要回遊動線を検討しており、この人道橋はそうした取り組みを推進するための大きな役割を担って現在建設中である。現在は左岸取付部、左岸側橋脚、中央橋脚まで工事が進んでおり、平成31年中に完成予定である。完成披露やイベント等への活用による更なるにぎわい創出に貢献が期待される。



写真-4 人道橋の建設状況（平成29年度3月時点）



図-5 完成予想図

### 5. おわりに

愛知県岡崎市における取り組みから、洪水により河川敷地が冠水するおそれのある河川において地域および民間を中心にかわまちづくり・ミズベリングを推進する上で、河川管理者、自治体、NPO等地域活動団体、市民等がそれぞれの利害を克服して協働することの重要性が明らかとなり、他の地域にも参考とすべき点が多い。現在工事中の人道橋が完成する時点では乙川の上下流が一体となった賑わいが創出されることが望まれる。

#### <参考文献>

- 1) 「おとがワ！ンダーランド」ホームページ  
<http://otogawonderland.jp/>
- 2) 「おとがわプロジェクト」ホームページ  
<http://otogawa.jp/>